

まちネットワークよりい まちネット寄居 私たちから発信しよう 私たちのまちづくり

さあ 手をつなご!

まちネット 寄居通信『さあ 手をつなご!』はみなさんの支援力がエネルギー源

TPP わからないおしえて 誰のため 何のため

安部芳裕さん講演会

6月27日 寄居町中央公民館
参加者 61名

TPP(環太平洋経済連携協定)の成り立ちから、現在まで大変わかりやすく丁寧にお話していただきました。TPPは多国籍企業が自由貿易のために障壁となるすべてを取り払い、権益を拡大させます。農業問題にとどまらず、医療、保険、食の安全、雇用など私たちの暮らしに直結してきます。TPPに含まれる可能性があるISD(投資家対国家間の紛争処理)条項は、私たちの暮らしを破壊するおそれがあります。参加者の反響は大変大きく、会場内ではJAふかやの専務理事から交渉参加への反対表明のアピールがありました。当日の講演会中継録画は、まちネット寄居のHPアドレスで見られます。

<http://www.geocities.jp/y115nety/index.htm>

主催:いやだね!TPP 寄居町連絡会・まちネット寄居

共催:生活クラブ生協寄居支部

協賛:JAふかや



参加した方々のアンケートの回答から

- ・私たちが国民にとって何の利益もなく、ごく一部の企業の利益のために、私達国民が不利益をこうむることはあってはならない事だと思う。特にISD条項は、私たち国民にとっては命とりの条項。(50代)
- ・日本が壊れる。(60代)
- ・TPP、原発、憲法改悪を同じ勢力が推進し、それに反対する勢力も同じ、日本がおかしな方向に向かっていると危機感を抱いています。(50代)
- ・国の主体というものが崩壊し、グローバル企業に食いものにされるだけだから。(60代)
- ・経済(金)より自主自立(命)。(50代)

- ・TPPは産業空洞化をうながす。政府試算では失業は想定されない。隣国の韓国は自殺率が上がっている。格差社会化がすすむ。文化も無くなる。(30代)
- ・日本の組織風土・文化など多岐に渡る良い面を大切にしたい。(50代)
- ・日本という独自の文化を持った国が破壊されてしまうという危機感を強く持ちました。(40代)
- ・もちろん反対です。何の利益もない。一部の経済人の為のものです。原発と同じ。(50代)
- ・日本国家主権がうばわれる。日本が無くなる。つぶれる。(60代)



この国の政治はどこへ行くの

結局、戦後60年の歴史が、このTPPを引き寄せているんだなあ、というのが、私の実感です。そして、TPPも、原発も、憲法改悪も、沖縄の基地問題も争点にされない、参議院選挙の報道のされ方や、投票率が5割という、この国の民の政治への態度が、TPPを押し進めているのだと思いました。

安部さんの話は、大変平明な語り口なのに、ドキッとするような日米関係史のあれこれが出て、面白かったです。詳しくお知りになりたい方は、著書の「世界超恐慌の正体【コーポラティズム vs 国民国家の最終戦争】」（945円 晋遊舎新書 2012/9/15）をお読みください。日本近現代史を学び直すことができます。

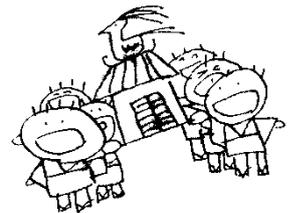
伊藤泰子

地域で力をつけよう

かつて、夢中になって読んだ「エンデの遺言」を思い出した。エンデが警鐘を鳴らしていたことが目の前で広がっている。非正規雇用の労働者の激増。格差社会の広がり。地域コミュニティの崩壊等々。エンデはその遺言の中で暴走する投資マネー社会を予言していた。「パン屋でパンを買うお金と投資マネーは基本的に違います。投資マネーは未来を食いつぶすお金。その終わりなき成長の必要性のためには、競争を強いられそのシステムの犠牲者は第三世界の人々と、自然にほかなりません。このシステムを機能させるためには今後もそれらの人々と自然は容赦なく搾取され続けられるでしょう。」このことは現実に恐ろしいほどの速度で襲いかかっている。まさにTPPのもたらす社会そのものと思う。わずかな人たちのみに富が集中、どんどん閉塞した社会構造へと突き進んでいく。そんなお金のみに縛られた暮らしを、少しで

も豊かに、地域で支えあう仕組みをと考えられたのが地域通貨だった。当時「たすけあい分かち合う社会へ」として取り組まれた地域通貨レインボーリングを覚えている人は少ないかもしれない。この地域通貨のコーディネーターとして活躍されていたのが、今回の講師安部芳裕さん。安部さんの原点を見る思いがする。実体のない市場経済の暴走は、グローバル企業により自由貿易、新自由主義の名の下、世界の富を食い荒らそうとしている。もちろん多くの犠牲を強いながら。私たちはこの流れに対して何ができるのかと考える。対抗していく知恵、労力を地域の中で出し合っていきたい。

大北秀子



大野和興さんを 囲んで

7月13日 寄居町中央公民館

参加者 21名

あまり政治に関心のない人だって、今の日本が、経済最優先で突っ走ろうとしているという印象を持っているのでは？3.11 大震災からの復興、被災者一人ひとりの日常を取り戻すために税金と善意金の使途が問われた頃、“復興のためにTPPありき”と聞こえ始めた。そのうち、原発輸出という信じられない言葉まで…。儲かれば何でもいいのか！「TPPは、平和に生きる権利を侵害するもの…」大野さんの言葉が心に染み

た。国民の健康と、生き甲斐をもって社会活動ができるような環境整備を第1に考えるのが国の役目だ。ちゃんと目を見開けば、様々な国内需要があることがわかるはず。何故そこに経済政策を打ち込められないのか？国民の平和な暮らし、一人ひとりの日常の幸せを守る国家にこそ“信頼”が生まれる。目先の利益を優先して、国民の幸せはあとから付いてくるとでも言わんばかりのアベノミクス。ちゃんちゃらおかしい。TPPで、ワーキングプアは増大し、消費活動は冷え冷え、努力しても報わ



れなければ勤勉意欲も薄れ、私利私欲の蔓延で治安悪化、格差社会で心身を病んだ国民は、破れたセーフティーネットから抜け落ちていく…。そんな不健康な国に、日本がなっていくのを黙って見てい

るわけには行かないでしょう！

篠原由実子

TPPはもう始まっている

長らく、農業問題に取り組んできた大野さんの話は、食をめぐるグローバルイゼーション=新自由主義の歴史から始まり、TPPはもう始まっている、という鋭い指摘に続きます。アメリカの基準=グローバルスタンダードを投資先の国にも押し付ける、その先取り現象として語られたのが、労働問題と社会保障と食の安全のことです。すでに、限定正社員制度とか、解雇の自由化法、という形で、働く者の権利が脅かされ、生活保護法改悪で国民のセーフティネットが破壊されようとしています。日本では、すでに遺伝子組み換え(GM)作物をどんどん承認していますし、輸入されたぼう大なGM作物は、加工品の原料として食卓に上っています。狂牛病(BSE)防止のための輸入制限は次々と緩和されて、外食やスーパーには安い米国産牛肉が大量に入ってきて、外国産のコメも販売されている現状があります。

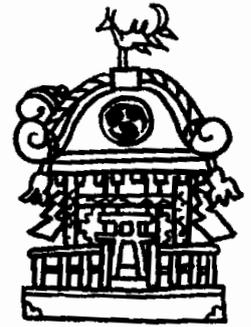
TPPの「お手本」である、米韓FTA(二国間自由貿易協定)が1年前に締結した、お隣の韓国で、薬価の高騰や自由診療の広がり健康保険制度が壊れていくというお話もありました。

そのあと、大野さんが強調したのは、「アメリカのおしつけ vs. 被害者の日本」という国家主義の論議に陥らず、小さな民同士の、「平和に当たり前に生きていく」という願いで、国を越えてつながっていくことの大切さでした。自分の暮らしの足元で、命を粗末にする政治を許さない、自立・自由・自給の動きを作っていくこと、という、大きな課題を参加者の間で共有できた会だったと思います。

伊藤泰子

淡々と語られる口調からは、おおらかなお人柄を感じさせられた。憲法問題も原発も TPP も根っこは同じ。単独で考え取り組み事ではない。TPPに負けない地域づくりが大切になること。協同組合、ワーカズ地域で働く場を、たすけあいの場を地域循環の場をといった大きなヒントになることも聞くことができた。

大北



第8回今しか聞けない戦争体験のお話

広島での被爆体験を語る

7月14日 寄居町中央公民館

参加者 20名

お話 服部道子さん



参加者からのアンケート回答より

◇平和を次の世代に伝えていく努力を続けてゆかなければと、改めて心に刻ませていただきました。

◇生の話を聞かせて頂きほんとうに有り難う。私も戦争体験もあり、これからの人生に今日のお話を忘れずに残された人生にいかしていきます。

◇この思いを伝えたい、という思いのこもった力強い語り口に感動しました。きな臭い危うい政治の動きがある中で考えさせられました。本当に二度と同じ過ちをおこしてはいけないし、被爆者の皆さまの戦後はまだ終わっていないのだと思いました。

◇戦争体験者が年々、高齢になり体験談が聞けるのは、とても貴重だと思います。憲法改正など、もう一度考えるきっかけになりました。

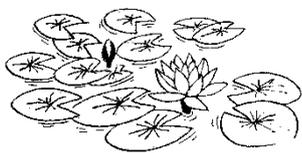
◇原爆投下、原子力発電を共通項として感じた。語り継ぐ必要性を痛感。

◇本当にあった話なので生々しいお話を聞け涙がでる所もあり、ゾクゾクする所もありました。子どもと一緒に参加して原爆について一緒に考えるチャンスとなりました。

平和憲法を守ろう

近い将来戦争を知らない戦後生まれだけの社会がやってくる。その前に自分たちの周辺で様々な形で戦争体験をされた方々から戦争の実態、どんな社会背景だったのか、どんな気持ちだったのか、など日常の延長からの経験談も聞いておこう。その歴史の生き証人として今に伝えておくことはもちろん、歴史に学び今を知る戦後世代の私たちから次の世代へ、戦争のない社会を持続させるためにはどうしたらよいか。そんなことを学び広めていこうと考え、企画したこの会。しかし、この数年日本の政治の場でちょっとどころかとんでもなくおかしいといった動きが出ている。憲法改正、国防軍、天皇を元首に…といった歴史に逆行することが。それもおこり得る世相だ。亡くなられた鶴見和子さんがその著作「遺言」の中に2つの遺言を残している。1つめは、憲法9条を守ること。2つめが、今ある豊かな自然環境、生態系を次の世代へそのまま渡すこと。戦争は最大の自然破壊のみならずすべてを奪ってしまう。広島、長崎の壮絶な原爆被害から学ぶことなく、日本中に原子力発電所が作られ福島原発事故につながり、さらにその原発を日本は輸出しようとしている。そんな時代で私たちにできること、次の世代のためにしなければならないことを、鶴見さんの遺言を忘れることなく、再び戦争へと向かわせないように、力を合わせて発信していきたいと思う。

大北



私が20代前半の頃の一場面を思い出した。友人の披露宴で受付と一緒に担当する同年代の男性が、広島県の出身だと自己紹介してくれた。受付がまだ暇だったので、高校の修学旅行見学の中で広島原爆資料館の展示に衝撃を受け、恐ろしさと戦争への怒りを感じたと話した。と、彼が、親指を見せて、「ちょっと奇形なんだ。母親が被爆者で…その影響なんだ。」と話し



議 会 傍 聴

2013. 6月議会

6/5本議会初日を傍聴はじめに、各委員会からの諸報告。総務経済常任委員会からは、観光振興について、鉢形城跡の観光活用を積極的に行うこと、文教厚生常任委員会からは、町民の健康づくり対策について、各地区に推進委員を育成配置するなど、町の重点課題と位置づけることなどが調査検討結果として各委員長より報告された。また、三ヶ山調査特別委員会からの調査報告は、出席者名の読み上げが長かった割には、検討事項等報告らしい内容はなかったような記憶が…。しかも、調査場所は、全員協議会室だったとか。大里広域市町村組合担当議員からは、介護保険とゴミ処理についてそれぞれ数値的な事業概要報告があった。その後、陳情書の報告。「件名 寄居駅前大型店舗の撤退について」、店舗（ライフ）撤退後の後継事業者の早期決定を促すような配慮を町に求める内容であった。町長の行政報告は、物品寄付（高度災害対応型エネルギー供給システム）があったことと、子供医療費窓口支払い廃止が、町内・深谷市・児玉郡市に加え、熊谷市内でも10月診療分より実施

てくれた。島原発事故のニュースでは、どうしてか思い出さなかったことだが、「忘れないで！原爆も原発も、一緒！恐ろしい…」全身で話される服部さんのお姿を拝見しているうちに、30年前の若き自分、戦争の傷跡の苦しみが引き継がれていく現実に少し触れた気がしたあの時を思い出した。戦争も原発もダメ！ No！ Y.S

できるようにするという。また、当議会午前の部後半は、坂本建治議長と岡本安明副議長の届出により、議長・副議長選挙がそれぞれ行われた。議員全員（16名）による選挙の結果は、議長選：稲山良文15票、田母神節子1票で稲山議員が議長に、副議長選：佐藤理美15票、田母神節子1票で、佐藤議員が副議長に決まった。続いて、各委員会の委員を新議長が選出し、各委員会ごとに委員長・副委員長を決めるため、別室での作業に入った。っというわけで、9時から11時半頃までの傍聴報告でした。

篠原

常任委員会の傍聴に向けて

えっ！！やっとなですか

6月町議会、11日12日に開催される常任委員会の傍聴を前日に議会事務局へ申し入れました。現行では、委員長の許可があれば傍聴可能という但し書きがあります。しかしこの数年何度も傍聴の申し込みをしましたが、すべて拒否されてきました。今回も同様でした。2009年11月、まちネットは町議会へ4項目の要望書を提出しました。

ダンボールコンポスト 講習会

5月25日 男衾コミュニティセンター 参加者 13名

その1番目が委員会傍聴の件で下記の要望に対する議会の回答は以下の内容でした。(ネット通信No.24参照)

①議会内の各委員会を、委員長の許可がなくても、一般町民に傍聴、公開ができるようにしてください。

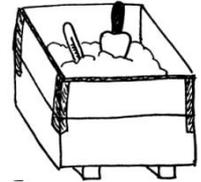
回答:委員会の傍聴につきましては、寄居町委員会条例にもとづき、委員長の許可を受けた方に傍聴を認めていることから、当面は現在の対応を継続することとします。

その他の回答もすべて否でした。それから4年目、やっと違った断りの回答が事務局から伝えられてきました。「現在、議会では議会改革委員会が設置され、常任委員会の傍聴に向けて、会場の傍聴席の設置、ルール作りなどを進めています。決まり次第傍聴を可能にしてゆく予定です。」。

えっ!! やつとですか……。近隣の市町では当たり前になっているのに寄居町ではどうして? 開かれた議会などとずっと標榜していながら、町民の代表として議会で審議議決する議員の委員会が傍聴できないなど、いったい誰のための議会?と問い続けてきました。寄居町の後進性を感じながら、思い切って改革ができない土壌はどこから来るのでしょうか?

やつと、やつと前向きな回答を得ることができましたが、9月議会から? 12月議会には実現できるの? まだ淡い期待でしかないのでしょうか? 私たちは今後も実際に常任委員会の傍聴が実現するまで言い続けるしかありません。

大北



完成した堆肥でグリーンカーテンを育てました

ダンボールコンポストってどんなもの? 名前にひかれ今回初参加しました。

ダンボール箱にピートモスともみ殻燻炭を入れてよく混ぜ合わせた中に生ごみを投入し、熟成させた肥として使うものです。毎日の生ごみを入れ手入れするとか、虫の防除のことなど少しの手間が必要です。が、ダンボールの中で生ごみが少しずつ分解されたい肥へと変化していく過程が見られること。そして良質なたい肥を自分で作ることを楽しみの一つとして取り組むことができるように感じました。私自身農業をしているため、生ごみはすべて畑のたい肥に投入しているのでダンボールコンポストを使うことはないと思いますが、ごみ問題は身近なことです。今回講習に参加し、ごみ減量の方法を知識として得られ、興味のある方に広められることができたと思っています。

佐藤光



今年で6年目となるダンボールコンポストは、毎回新しく実践する方が増えています。ご夫婦で参加された方も。生ごみたい肥への関心度の高さがうかがえます。来年のグリーンカーテン用たい肥としてストックも可能。いつでも始められます。秋頃までに、また、講習会をやるので、お楽しみに!



まちネット寄居のホームページのURLが新しくなりました

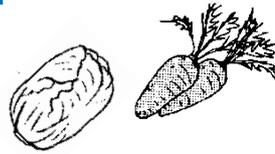
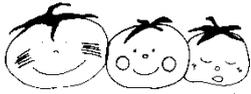
<http://www.geocities.jp/y115nety/index.htm> にアクセスしてください

再度のお願い

しばらくの間、新URLをお気に入りに登録して、頻繁にアクセスをしてください。そして新しいホームページを上位にあげてください。

ご協力をお願いします。「まちネット寄居」で検索すると旧URLが生きていて、古いものが出てきてしまいます。

木曜野菜市



おいしい、新鮮！5月16日からスタート

生活クラブの49948班の皆さんを対象に始まった木曜野菜市。皆農塾の鈴木恵子さんのご厚意でスタート。

7月30日現在の売り上げ(カンパ金)22,390円は、いやだね!TPP寄居町連絡会と等分。ネットの活動資金は万年金欠状態、まして4月に立ち上がったばかりのTPP寄居町連絡会は数人の会費のみで資金ゼロ。そんな中で有機、無農薬で栽培された高品質の野菜たちを100円均一での販売。売り上げはすべて活動資金としてカンパ。毎年、年間活動計画の中で、活動資金の事業を模索としてきた中で、今年取り組みは本当に大助かり、ただただ感謝あるのみ。毎日食べる野菜だから、おいしく安心は最高の条件。「毎週とてもおいしい楽しみです」と大好評です。翌日まで残ってしまった野菜は、ネット会員でもある吉田充子さんがデイサービスの「よりあいの家くるみ」まで運んでくださり、ヘルパーさんや、W.C.のそら豆で引き取ってくれました。同じくネット会員で、くるみの遠藤明子さんもいろいろと気を配ってくださいました。陰でたくさんの人たちに支えられての野菜市です。



information お知らせ

ネット会員募集中 いつでもどうぞ！

毎日の暮らしの中で、感じている不安、困っていることから出発。自分たちの足元から見つめ、話していきましょう。ぜひ、お仲間になってください。

問合せ・・・大北(582-4073)

安部芳裕さん講演会 DVDと著書

●講演会当日撮影の動画のDVD
(頒価300円)

●「世界超恐慌の正体【コーポラティズム vs 国民国家の最終戦争】」(945円 晋遊舎新書)
手元に在庫有ります
ご希望の方にお分けします。
(連絡先 伊藤 080-5862-3645)

●まちネットでも「世界恐慌の正体」を購入しました。読んでみたい方は、貸し出しますのでご連絡ください。

大北(582-4073)まで

編集後記

ダンボールコンポスト講習会、TPP問題の講演会2回、戦争体験のお話を聞く会と立て続けの4回のイベントに非日常性の忙しさに追われた。その間に参議院選挙。特に何かをしてという事ではないが、常に意識の中から離れない。原発、放射性物質の汚染、憲法改悪、TPPへの参加交渉などなど大きな課題は次々と出現。そして知らず知らずのうちにこれらを分断して考えていることに気づかされる。多くの人たちが望んでいない方向へと社会が、国が動いている。それを軌道修正できるだけの力を私たち国民は持ち合わせているのか。社会正義とか、企業倫理など通用しなくなっている市場経済の中で、地道な地域の自治など望めるのだろうか。投票率52.61%(全国平均、埼玉県は50.13%)の参議院選挙を憂う。棄権した半分近い有権者は、この国の将来をどう考えているのだろうか。それでも私たちは諦めてなどいられない。

